

北九州地区労連ニュース

2018年9月号 No. 143

発行 北九州地区労働組合総連合
 連絡先 北九州市小倉北区黄金1-4-9-207号
 メール k_oren@ybb.ne.jp 093-921-0747
 ホームページ http://www.geocities.jp/k_oren/



永富議長が、開会に当たっての主催者挨拶をおこないました

8時間働けば普通の生活の出来る社会に！ 北九州地区労連第30回定期大会でたたかう方針を決定

北九州地区労連第30回定期大会は、「世界で一番企業が活動しやすい国」をめざして、100年以上にわたる労働者のたたかひの成果を壊し、歴史を逆戻りさせる「働き方改革」を強行した安倍政権に対する怒りが沸き起こるなか、「ストップ安倍改憲！憲法を守りいかそう！」「8時間働いて普通に暮らせる社会の実現を！」「全ての労働者を視野に組織と要求を前進させ、未来を切り拓こう！」などのスローガンをかけ、2018年9月16日(日)10時から、西部毎日会館に、代議員51人、委任12人、傍聴者8人、来賓26人、役員19人など104人が参加し開催されました。

冒頭あいさつに立った永富議長は、「地区労連は、この一年、北九州地区の労働者の権利を守るためにみなさんとともに奮闘してきました。(中略)安倍政権を退陣に追い込み、労働者の要求を前進させ、安心してくらせる社会の実現をめざし、みなさんとも奮闘する決意を表明し、ごあいさつとします。」と述べました。来賓として、福岡県労連、北九州第一法律事務所、国労北九州地区本部、北九州労健連、北九州市民の会、北九州共闘、日本共産党、人権連、労働者支援事務所などから26人が参加し、代表者からあいさつを受けました。議案の提案は、経過報告は堀田事務局長、運動方針(案)は中山副議長が提案し、財政関係については永吉事務局次長が提案しました。

午後から、再開した議事の冒頭に争議団共闘会議中村議長から北九州でたたかわれている争議の紹介があり、(株)ヒナンのパワハラ・仕事の取り上げ、北九州



すべての議案は、満場一致で採択されました

幹事会が提案した議案について12人の代議員から発言がありました。

駅弁当(株)の退職金分割支給問題でたたかっている2人に対する支援を訴えました。JAL闘争の榊原さんからは、会社側から争議解決に向けた話し合いを行わないなどの申し出があり現在話し合いが継続していることを報告し大きな激励の拍手が起りました。

2018年度の役員選挙は、すべての役職について定数内の立候補で、信任投票が行われ、投票総数51票で、開票の結果候補者全員が圧倒的多数で信任されました。

北九州地区労連は、今定期大会で決定した方針のもと、安倍自・公政権の暴走をストップし、労働者・国民が安全・安心に暮らせる社会をめざし、全力をあげて奮闘する決意を固めました。

雨あがり

先日山口ゆめ花博に行ってきました。まず驚いたのは駐車場の広さ。シャトルバスが出るほど。

まず花の谷ゾーンに行きました。「普通は同種の花を群生に植えてあるのにねえ」と妹と話していると手入れをしていた人が「ここはデザインがいてコーディネートしています。花の名は記していないけどガイドがいるから頼んでは」と話しかけてくれました。

花庭にのびのび、お出迎え、おもてなしなど名を付けた庭で全体に幅の狭い縦に色の違う川の流れたような印象の花庭でした。

日本一長い竹のコースターや、日本一高いブランコは長い行列で整理番号を出しており午後からでは乗れそうもありません。

ブランコの場合、係の人がいて背中を三押ししたら終わり、周りにいた人たちと思わず顔を見合わせ声をあげて笑いこけた。

バルーンに乗りたかったがそれも早々と終わっていました。芸達者な火災の大道芸の人がいて技も楽しめたが、話術で人を笑わせる芸人でなければ人を集めることは出来ないと思わせた人でした。

「山口花博」に行こうと思っっている人は駐車場の広さを考えると。朝早くに行かれることをお勧めします。

8人の代議員が発言しました



J-M-T-U安川
久保 忠彦代議員

7年間働いていた契約社員が突然雇止めを通告された。労働契約法19条で10月から無期雇用になる前にリウマチで仕事が出来なくなったということ雇止め。許すことはできない。雇い止め撤回に向け全力を挙げ。支援をお願いしたい。



北九州教職員組合
宮地 智広代議員

4月から英語授業が2年前倒しで実施された。その為、4年生以上は毎日の時間びっしりで、子どもたちはくたくたです。道徳も強化され、教科書を使って教えることが強制されている。授業をしない教員を増やして市の教育政策を貫徹するために金をつぎ込んでいます。まさに、逆立ち市政だといえます。

10月に全教の女性部交流集会が北九州市で開催される。

子どもと教育、北九州市の先生方の働きやすい職場づくりのために頑張る。



健和会労働組合
安達 靖史代議員

地域医療改悪攻撃が強まっている。病床削減を真っ先に押しつけられるのは、国公立病院となる可能性が高い。国公立病院が削減された場合、経営上の困難から廃止や統合、診療科の縮小が考えられる。

すでに、病床削減計画を見越した国立病院の統廃合計画が持ち上がった。民間に譲渡す病院も出ている。医療産別の一員として全ての労働者・国民に権利としての社会保障が実現できるように奮闘したい。



年金者組合
川副 通夫代議員

年金者組合は「年金引き下げは憲法違反だ。」と全国で裁判を提起したたかっている。

10月20日、「年金改善、安倍政権打倒、野党共闘の強化」を広くアピールするために年金一揆集会を取り組む。

小倉北区米町公園での集会、小倉駅までのパレード、南口デッキでのチラシ配布を収むことにしている。多くの方の参加をお願いしたい。



福建労北九州支部
久保 勇人代議員

私は、福建労で働くまでアスベストのことを何も知りませんでした。福建労の活動の中で、アスベストは人体に悪影響を及ぼす有害な物質だと知りました。署名運動の中で、「まだアスベストはあるのか?」「アスベストで私の家族も亡くなった。」などの声を耳にした。全国でたたかわれている裁判は、8月末に出された大阪高裁判決で、国に9回企業責任を認める、一人親方も救済される、全面勝訴判決を勝ち取った。全ての被害者を救済するためにも、アスベストの取り組みはとても重要だ。



自治労連北九州
土井 善博代議員

沖縄県知事選挙について発言する。今年の名護市長選挙に支援に行った。2日しかいけず残念な結果に終わった。相手方は、今回の選挙と同様辺野古問題に一切口を閉ざし、期日前投票と企業の締め付けを強化していた。沖縄の基地問題は日本全体の問題だ。辺野古に新しい基地



北九市職労
永野 忠幸代議員

が出来れば、今後200年も基地はあり続ける。世界の情勢とも逆行している。微力だが、沖縄県知事選挙支援に、20日から4日間行ってくる。ともにがんばろう!

北部豪雨、西日本豪雨、大阪地震、北海道地震と災害が続いている。市職労としてボランティアを派遣した。災害対策について北九州市に要求書を提出。安全対策を求めている。アスベスト問題は未だ存在している。解体コストがかかるため、アスベストはないとして建物を解体する業者もいる。労健連は、10月17日、アスベストキャラバンの取り組みをする。参加を。



北九学嘱労
出口 節子代議員

安全・安心の学校給食を守るための要求署名を取り組んでいる。北九州の学校給食は普通校の直営給食は民間委託が進みわずか6校になった。民間委託校では、離職率が高く、衛生問題等に問題があると指摘されている。

14種類の署名へのご協力ありがとうございました。

北九州地区労連と協力共同の関係にある国民救援会から、年金引き下げ反対署名、生存権裁判支援署名、辺野古新基地建設反対署名、えん罪事件の署名など14種類の署名への協力要請があり、大会会場後ろに署名コーナーを作り大会参加者に呼びかけました。最高31筆、最低22筆の署名が集約されました。感謝！感謝です。



署名コーナーは大盛況でした

る。学嘱労はこれまで民間委託を中断し直営校を残すことを要求し、署名の集約、教委要請、座り込み、抗議行動や街頭宣伝行動などに延べ500人を超える組合員が参加している。安全・安心の学校給食を守るため全力で頑張る決意を固めている。署名の集約にご協力を!

心ひとつに新基地建設を阻止 土砂搬入を許さない！ 沖縄県知事選勝利で、嘘と疑惑だらけ、安倍政権に鉄槌を！

翁長雄志沖縄県知事の急逝にもなつ沖縄県知事選挙が、9月13日告示、30日投票でたたかわれます。この選挙は、沖縄県名護市・辺野古への新基地建設の強行を許さず、基地負担の軽減を求め、平和で豊かな島の実現を願う沖縄県民の未来をかけたたたかいです。同時に、憲法9条に自衛隊を明記して戦争する国に加速しようとしている安倍政権の暴走、立憲主義を蹂躪してやまない強権政治への審判の意味をもつ全国的選挙です。

翁長知事は、当選直後に「イデオロギーよりアイディンティ」、「基地は沖縄経済の最大の阻害要因」との立場で、保守と革新が共闘する「オール沖縄」の力で、「普天間基地の即時閉鎖・撤去、県内移設断念、オスプレイ配備中止」の建白書の実現をめざす、と熱く語られました。

知事就任後も、中央政府の様々な妨害や、機動隊など動員した基地建設の押し付けなどをはねのけ、安倍政権と真正面から対決され続けました。要求の一致点で真摯に共闘発展させようとするその姿勢が全国に伝わり、市民と野党の共闘こそ安倍政権と対決する道との共感が高まり、その後の国政選挙などに大きな影響を与えました。その点で、オール沖縄のたたかいは、オールジャパンのたたかいです。

安倍政権は、辺野古への土砂投入強行の姿勢を示し、臨時国会での9条改憲発議を公言するなど、戦争する国への暴走をさらに強めています。その情勢下

での沖縄県知事選挙です。安倍政権の憲法破壊、民意・地方自治蹂躪を許さない、その世論と行動の集中点に県知事選挙を位置付けてたたかいていぬきましよう。

後継候補として「オール沖縄」の総意で推薦された候補者は、2015年夏の戦争法・安保法制反対のたたかいで以降、国会前をはじめとするたたかいに繰り返し参加し、市民と野党の共闘の前進に大きな役割を發揮してこられました。「戦後の沖縄を体現する政治家」であり、固い信念をもった政治家です。

◆第30回定期大会で集約された沖縄県知事選勝利の募金12,638円と、北九州地区労連からの支援募金10,000円合計22,638円を沖縄県労連に送りました。
◆西日本災害支援募金は、集約された20,017円を倉敷市に送金させていただきます。



全国の平和を願う仲間たちの期待を背負って頑張るデニーさん

北九州地区労連は、第30回定期大会で確立した方針に基づき、「戦争する国づくり」に反対し、安倍暴走政治からの転換を目指すため、この沖縄県知事選挙において、すべての組織・単組で意思統一を図り、あらゆる共闘を広げ、総力を挙げて勝利に向けて奮闘します。

大会で選出された2018年度新役員体制

議長	永富 雅生	北九州市職員労働組合
副議長	安達 靖史	健和会労働組合
	大島 正	全教北九州市教組
	小橋 弘子	JMITUTO支部
	新屋敷浩二	福建労北九州支部
	仲築間省三	全日本年金者組合
事務局次長	堀田 和夫	北九州地域ユニオン
	永吉 孝一	全教北九州市教職員組合
	細川 達也	健和会労働組合
幹事	池田 征治	国公北九州地区協議会
	今泉 礼二	JMITU門司小倉
	坂内 洋一	北九州市職員労働組合
	高崎 恭子	北九州市学嘱労
	戸田 千泉	北九州地域ユニオン
	中村 忠徳	ポポロ労組
	中山 和彦	健和会労働組合
	藤岡 元気	KOH労働組合
	安藤 昭雄	全日本年金者組合
	石迫 直	戸畑地区協議会
	西村 文男	八幡地区協議会
	早田 幸二	小倉地区協議会
	小田 恭司	全日本年金者組合
会計監査	菊谷 愛	福建労北九州支部

今期で退任された役員は、仙道幹事、田籠幹事、亀田幹事、澤山幹事、上田幹事の5人です。長い間の活動本当にご苦労さまでした。心より感謝申し上げます。



労働法コラム 第45回

「ブラック部活動問題」



黒崎合同法律事務所

溝口史子 弁護士

わりに、原則として時間外労働手当が支給されない(給特法による労働基準法37条の適用除外)扱いとされているのです。これにより、そもそも公立学校教職員には、残業代ゼロで長時間残業に従事せざるを得ない実情がありました。

加えて、教職員は、「慣習」「学校からお願い」「生徒や保護者からの期待」を背景に、課外活動であるはずの部活動の顧問に就任し、早朝・夜間・休日におよぶ長時間のボランティア労働を強いられています。特に、運動部顧問にあっては、過労死ラインに達する長時間労働に従事しているとの統計データもあるほどです。

休日の部活動指導が1日4時間以上に及んだ場合、文科省が定める日額3600円の部活動手

当が支給されますが、放課後は対象ではない上、労働基準法と比較して低水準なのは明らかです。また、前述した部活動の曖昧な位置づけのため、部活動指導により教職員に生じた傷病が必ずしも公務災害と認められるとは限らないのも問題です。

公立学校の運動部活動顧問のうち40〜45%程度が競技未経験者であるとの調査結果もある。素人による運動部活動の指導が事故をもたらしかねず、危険であることは言うまでもありません。事案によっては、教職員は顧問として事故の責任を問われかねません。

平成29年4月、学校教育法施行規則の改正により、部活動指導員が制度化されました。同制度では、部活動指導員は、部活動の顧問として技術的な指導を行うとともに、担当教職員等と日常的に指導内容や生徒の様子、事故が発生した場合の対応等について情報交換を行う等の連携を十分に図るものとされています。

指導員の雇用により、教職員の負担が一定程度軽減されること

が期待できるものの、指導員の報酬が低額であること、資格要件が明確でないこと、責任が重いこと(いじめ・事故対応等)から、現時点では、指導者として適格性がある者を、各校に必要な数だけ配置できる状況には至っていません。

教職員の時間外手当に関する制度の見直しも含め、早急な改善が望まれます。



喜んで、部活動に参加できる体制を確立してほしい

辺野古新基地建設反対!! 玉城三二一さん沖縄知事選必勝!
9・18「沖縄連帯」小倉駅大宣伝行動に参加しました。

2018年8月8日、翁長知事がすい臓ガンのためにご逝去され、沖縄の情勢は大きな節目となっています。翁長知事の意思を引き継ぐ「オール沖縄」から県知事を再度当選させることが安倍政権の暴走にストップをかける大きな力となります。

安倍首相の政治手法は、稚拙、劣悪、自らに従順な「オトモたち」は、あからさまに優遇、抵抗するものには徹底して圧力を加える。沖縄には憲法も民主主義も適用されないかのような態度をとり続けています。

このような状況を北九州においても世論化し、「沖縄の問題は日本問題」との認識を広めるために、9月18日(火)に300人規模の沖縄連帯大宣伝行動が取り組まれ、300人を超える参加で大きな成功を勝ち取ることが出来ました。



北九州地区労連傘下の組合員も沢山参加



辺野古基地建設反対9・18小倉駅大宣伝